【　学校紹介　】

※以下，各団体さまよりご報告いただきましたものを転写しましたが，誤字脱字等ございましたらお許し下さい。

仙台市立立町小学校

立町小学校は，開校から１３６年目を迎える歴史のある学校です。立町学区には多くの店が並び，中には藩政時代から続く店もあり，いろいろな職人さんがいます。このような歴史と環境に恵まれた学校で，私たちは勉強に励んでいます。そして土井晩翠先生の母校でもあります。平成１５年，「土井晩翠校歌資料室」ができあがり，今では全国から２００校近い学校の校歌が集まりました。以来，市内はもちろん他県からの来館者も絶えません。学校の玄関を入るとき，校歌資料室に入るとき，「荒城の月」の出迎えがあります。是非お立ち寄りください。

さて，立町小学校の校歌は，大正１４年に制定されました。校歌は，機会ある事に歌われ，いつも心を込めて歌っています。歌詞の二番，最後に「努めて倦まず身を立てて，国と民とのためつくせ」という言葉がありますが，晩翠先生が立町小学校の児童に託した強い想いを感じることができます。

そんな晩翠先生の想いを浮かべながら立町小学校の校歌を歌います。お聞きください。

仙台市立木町通小学校

土井晩翠先生に作曲していただいた校歌のとおり，その校歌の出だしにあるように，木町通小学校は，明治６年創立の歴史ある学校です。自慢できることは，町の中にある学校なのに大木のいちょうの木などがたくさんあり，四季折々の風景が楽しめてとても美しいということです。学校の外観は，コンクリート造りですが中にはいると木材がふんだんに使われていて，心が落ち着ける校舎です。また，毎年秋に行われるＰＴＡ主催の花火祭りは，「ビルの立ち並ぶ町の中で，こんなに大きな花火があがるのか」とびっくりするほど本格的な花火です。機会があったら，是非見に来てください。きっと忘れられない思い出ができると思います。

では，私たち６９名全員で，心を込めてていねいに歌いますので，どうぞお聞きください。

仙台市立片平丁小学校

仙台市立片平丁小学校は，明治６年，５番小学校として開校し，今年で１３６年目を迎えました。歴代の卒業生の中には，赤痢菌の発見者として世界の人々を救済した文化勲章受章者の志賀潔先生や同じく文化勲章受章者でヒノキチオール発見者の野副鉄男先生，半導体研究の世界的権威者である西澤潤一先生など，多くの著名な方々がいらっしゃいます。

現在本校には，４０５名の児童が在籍し，新たな学校の伝統と歴史をつくろうと日々勉強や活動に取り組んでいます。今年度は，仙台市立学校の中では初めてとなる「校庭芝生化工事」が終了し，９月１日には市長さんをはじめ，多くの来賓の皆様をお迎えしてオープンセレモニーを開催しました。現在は，芝生化された快適な校庭で伸び伸びと体育の授業を行ったり，元気に遊んだりしています。

土井晩翠先生が作詞された校歌は，大正３年３月に制定され，今日まで変わることなく，多くの児童に歌い継がれています。晩翠先生と本校とのかかわりも深く，３人のお子様が本校を巣立っています。

仙台市立北六番丁小学校

仙台市立北六番丁小学校は，仙台市北東部の東照宮，宮町商店街に囲まれた地域に，昭和１３年４月１日に仙台市で１７番目の小学校として開校しました。今年は開校７０周年目を迎えています。現在，児童数は２５０名余りで，家庭的な雰囲気の中で勉強に運動に意欲的に取り組んでいます。ここ数年は環境教育を中心に学習を展開し，昨年は「マイタウンマップコンクール」で環境大臣賞や「近くの梅田川に関わる環境交流学習」で文部科学大臣賞を頂きました。

校歌は，土井晩翠先生作詞，海鋒義美先生作曲で昭和２２年につくっていただきました。歌詞からは，戦後間もない時代の児童に対する願いなどが伺われ，現代に引き継がれています。行事があるたびに，テンポのよいリズムにのり，歌詞を味わいながら全校児童が歌っています。

仙台市立第二中学校

昭和２５年に開校，今年で６２年目を迎えた本校は，学園都市仙台の中心部に位置しており，学区内には多くの文化公共施設や，西に自然豊かな青葉山，その山里を流れる清流豊かな広瀬川など，豊かな自然にも恵まれています。

北五番丁高等小学校は，大正４年４月，現在の第二中学校に開校いたしました。校歌はもちろん土井晩翠先生の作詞によるものです。今日は吹奏楽部員と立町小学校出身の１年生有志による校歌披露をさせていただきます。どうぞお聞き下さい。

旧制　岩手女子師範学校（旧制岩手女子師範学校同窓会）

「心に生きる歌」私たちの学校は明治３２年岩手県師範学校に女子部が設置され，大正１２年４月，岩手県女子師範学校として創立致しました。校歌の制定は，大正１５年９月，作詞土井晩翠先生，作曲山田耕筰で作られたものです。学校は盛岡城（不来方（こずかた）城）の一部で，お堀のそばですから，「不来方城の跡占めたてる」と歌い出します。

学校は全寮制でしたので夕食後，自習時間までの間，校庭や芝生に出て校歌や寮歌を口ずさみ，おしゃべりするのが楽しみでした。特に校歌は，卒業しても「濁れる世の風吹くことも，鈴蘭々々しるしに恥じず・・・・」の歌詞が私たち一人一人の中に，校章の鈴蘭と共にいつまでも生き続ける心の支えになっているすばらしい校歌です。

戦前も戦後も，人間教育の本質は変わらないと思います。土井晩翠先生の詩は，私たちに多くの示唆を与えて下さっています。学制改革で昭和２６年３月学校は廃校になり，最後の卒業生は７６歳になりました。多くの先輩方にも今も，この曲は「心に生きる歌」として永遠に残る名曲です。

岩手県立盛岡工業高等学校

本校，岩手県立盛岡工業高等学校は，明治３１年開校，今年で創立１１０年を迎える県内屈指の伝統校である。１０月１０日には創立１１０周年記念式典が，盛岡市長を始め各方面から来賓のご出席をい

ただき盛大に開催された。本校は特に部活動が盛んで，ラグビー部は全国大会の常連校であり，東北の雄としてその名を馳せている。

この校歌は昭和の始めのころ学校で鋭意会議を重ね，土井晩翠作詞，山田耕筰作曲の構想を実現させ，昭和３年に制定されたものである。作詞の依頼は第九代校長自らが受け持ち，作曲依頼は同窓会東京支部が担当することになった。校長と土井晩翠先生との結びつきは，校長が旧制仙台高等工業学校の教授時代に，土井先生が旧制仙台二高の教授をしておられ，親交があり快諾を得たとのことである。作曲は，当時本校同窓会東京支部長が山田耕筰先生と直接交渉し念願が叶った。支部長と山田先生は小石川区小日向町にお住まいで，面識があったとの説もあり，それらが功を奏したようである。

格調高い詩文，豊かな音律で，歌う者，聞く者の心をゆさぶる歌となっている。また，土井晩翠，山田耕筰という一時代を画した御両名の歌としても歴史的価値のある校歌で校歌である。

静岡県立焼津水産高等学校

当地を我が国屈指の遠洋漁業基地に飛躍せしめた焼津漁民の水産教育の要求は，県の施策を待ちきれず，大正１０年１１月の町議会において，焼津町立乙種水産学校の設立を決議させるに至りました。翌１１年４月に小学校の教室を仮校舎として授業が開始されました。

校歌は，創立１５周年行事として作成することになり，後藤廣吉教頭は旧制第二高等学校（現東北大学）の師である土井晩翠先生に作詞を依頼しました。作曲は海軍軍楽隊に委嘱し，昭和１０年１０月に「英武の尊・・・・」で始まる校歌が完成されました。昭和１１年１１月１１日に創立１５周年記念式典が，真新しい講堂で盛大に行われ，この立派な校歌が３００人と急増した生徒によって声高らかに斉唱されました。当時の卒業生の一人は，「卒業以来，苦しいとき，楽しいとき，気が滅入ったとき，自らを鼓舞するために童声を上げ，また友と再会を喜び歌う。この校歌の詩のすばらしさに打たれ，土井晩翠先生を心から尊敬し，校歌を愛し先生の詩を愛したことが，いつしか詩心として培われ，後年，焼津市民歌の入選にもつながった。」と，６０周年記念誌に投稿しています。

創立８０周年を過ぎた現在も，校歌は，卒業生はもとより在校生たちによって各式典・各行事，野球大会のエール交換等で声高らかに歌われています。

岩手県立花泉高等学校

本校は，昭和２３年４月に創立されました。校歌の作詞者佐藤虎雄氏は，本校創立前より高校設置について地元有志として奔走された方です。この歌詞は作詞者に於いて土井晩翠の校閲を経てから本校に寄贈され，昭和２５年１２月に校歌として制定されました。作曲は当時，仙台市教育委員会音楽指導主事として令名高い海鋒義美氏の手になるものです。

現在は生徒数が２１０名，各学年２クラスの全日制普通科の高校です。本日は音楽部の３年生が発表いたします。

旧制弘前高等学校（同校同窓会　仙台支部　仙台弘高会）

旧制弘前高等学校は戦前の旧教育制度のもとで，全国に三十数校あった国立の高等学校の一つです。当時の高等学校は，旧制度の大学（主に帝国大学）に進学する学生のための教育機関でした。弘前高等学校は大正９年（１９２０年）に創設されましたが，第二次世界大戦後の教育制度の改革にともなって，

昭和２５年（１９５０年）に廃校になり，新制弘前大学に移行しました。

旧制弘前高等学校初代校長は秋田寛氏で，旧制第二高等学校在学時に土井晩翠先生と親交があり，その縁で校歌の作詞をお願いしたと伝えられております。

弘前高等学校の校章は「大鵬」です。この鳥は中国の古典「老子」の「大鵬寓話」に由来するもで，北の海から飛び出した巨大な鳥が南をめざすというもので，校歌の中にも歌い込まれております。

青森県立青森商業高等学校（同校同窓会　仙台支部　青商同窓会）

本校の校歌は，創立１０周年を記念して大正６年９月２３日に制定されたものであります。作詞の土井晩翠先生は，皆さんご存じのとおり有名な詩人で，本校に校歌を寄せてくださったのは次のようなことでした。

当時，土井晩翠先生は旧制第二高等学校（現東北大学）に勤務しておりました。本校の創立当時から永く本校に勤務していた須藤喜美弥先生が，旧制第二高等学校を卒業している関係から，土井晩翠先生にお願いしたものであります。土井先生の作詞した校歌はたくさんありますが，当時は仙台二高と本校の二校だけだったと言われています。

作曲の釜萢善作先生は，弘前大学の前身である青森師範学校の先生をされた方で，当時作曲の大家として有名な，滝廉太郎氏と並び称されたすぐれた作曲家でありました。

現在歌われている校歌の歌詞が，制定当時の歌詞の語句と数箇所異なっておりますが，それは戦時中文部省に校歌局が設置され，全国の校歌が一部手直しされたものといわれています。

岩手中学校・岩手高等学校　（同校同窓会　仙台支部　仙台石櫻同窓会）

旧制岩手中学校として大正１５年４月創立した岩手県唯一の中高一貫制男子校です。盛岡の名所「石割桜」を象徴とする「不撓不屈」「質実剛健」の「石桜精神」の気風と社会的有為の人材育成が建学の基になっております。

開校から２年後の昭和３年１月に土井晩翠先生，山田耕筰先生による校歌が誕生しましたが，校訓三綱領が漢籍に基づく「積慶・重暉・養正」と，たいへん難しいものでした。その上これらを折り込んでの作詞をお願いしたところ，晩翠先生は歌詞の２番に「神と祖国と人道の」と，いともたやすく読み込まれたのです。さすがに非凡なる才の詩人，晩翠先生と申せます。

本日の晩翠忌に「仙台石桜同窓会」有志一同，心を込めて歌わせていただきます。

旧制第二高等学校（同校同窓会　第二高等学校尚志同窓会）

二高校歌「天は東北」は学校創立から２０年目の明治３８年１０月制定となっている。制定が遅れた理由は，当時の考え方として，校友会組織「尚志会」が整備された段階で制定しようとしたためのようである。（尚志会会歌の制定　明治３６年）

明治３６年，校歌と尚志会歌の作品募集を行ったところ，応募２７編の中から尚志会歌の法は選定できたが，校歌の方は該当作品がなく，更に先送りされることになる。

そこで外遊中の土井林吉（晩翠）先生の帰国を待って，作歌を依頼し，ようやく校歌の完成を見るに至ったものである。

なお，二高校歌は当時早稲田大学の「都の西北」とともに「模範的優秀校歌の双璧」との高い評価を

受けていたことを紹介しておきたい。

仙台高等工業学校（同校同窓会　Ｓ．Ｋ．Ｋ同窓会）

旧制仙台高等工業学校は明治３９年（１９０６）の創立であります。時あたかも日清日露戦役前後における我国産業の驚異的飛躍の時であり，産業高等教育振興の必要性が痛感され，工学専門学校設置令により，名古屋，熊本と共に全国三大高等工業の一つとして誕生しました。

明治４５年（１９１２），東北帝国大学設置に関連し札幌農科大学，東北理科大学，仙台医学専門学校と共に帝国大学の一翼を担い，東北帝国大学工学専門部に変更されました。

大正１０年（１９２１）原内閣時代，多年国民世論の要求たる高等教育機関の大拡張運動に伴い，再び仙台高等工業学校として独立致しました。

爾来，日本の高等工学の一大拠点として文化勲章受賞者増本量博士を始め幾多の工業発展の先駆者，指導者を生んでまいり，此等諸先輩の自治，共同，研修の場として我が日就寮がありました。

以後昭和２６年（１９５１）東北大学工学部の基礎となり永遠に名門仙台高等工業学校は消えたのであります。

福島県立安達高等学校（同校同窓会　仙台支部　仙台まゆみ会）

福島県立安達高等学校は大正１２年，県立安達中学校として福島県安達郡二本松町（現二本松市）に創立され，８０有余年の伝統を培ってきました。

校名・校章は，万葉集に詠われた「陸奥の安達太良（安達太良山の古名）真弓・・・」に由来し，校名は「安達」，校章は「真弓花」を象ったものです。また同窓会の通称も「まゆみ会」です。真弓は古代弓の材料として用いられ，その強靭で柔軟さが好まれ，春の白い花は「清純」を，秋の紅葉は「情熱」を象徴し，「まゆみの心」として人格陶冶・教育実践の目標としています。

同窓生には，文勲章受章者の高橋信次氏をはじめとして，国内外・地域の広い分野で活躍しています。

校歌は，作詞者を父，作曲者を母として生まれた子供だと思っています。ここに集う学校は，父を同じくする校歌兄弟校です。今日は，父が子に託した想いを精一杯歌います。

福島県立福島高等学校（同校同窓会　みやぎ梅苑会）

本校は，福島県福島市に，１８９８年，明治３１年に創立され，今年で１１０周年を迎える県下屈指の伝統校です。

土井晩翠先生作詞の校歌は，関東大震災が起きた大正１２年，母校創立２５周年記念事業の一環として作成されました。震災のため祝賀会は中止となりましたが，校歌作成については，母校の二宮啓三先生から土井晩翠先生に委嘱しました。作曲は，土井先生から中田章先生に依頼したようです。中田先生は「めだかの学校」「ちいさい秋みつけた」「夏の思い出」の作曲家中田喜直先生の父親で「早春賦」を作曲したことで知られています。

その後，生徒数の変更，旧制中学から新制高校と制度が変更になっても，さらに平成１５年度から男女共学となったのですが，歌詞はそのまま歌い継がれています。

さて，我々は，その宮城県在住のＯＢ会で，校章の梅に因み，「みやぎ梅苑会」と称します。平成８年に再建設立して以来，年１回の総会を始め，母校の応援などさまざまな活動を行っています。

尚絅学院中学校・高等学校

今年で創立１１６年目を迎える尚絅学院中高（旧尚絅女学院）は，アメリカからの婦人宣教師によって立てられたキリスト教主義の学校です。明治２６年に現在の場所に移転して，大正６年（創立２５周年の年）に土井晩翠先生作詞，佐々木英先生作曲による「校歌」が作られ，現在まで歌い続けております。

２００３年の４年生大学開学に合わせて，大学が男女共学となり学校名を「尚絅学院」としました。そして今年度からは中高も男女共学となりました。現在は幼稚園・中学校・高等学校・大学・大学院と総合学園となっております。

土井晩翠先生の作詞した本校の校歌は，本校の土台であるキリスト教と建学の精神である，内なる豊かな女性の成長を願った，すばらしい校歌と自負しております。メロディーも最高です。是非聞いてみてください。